

## 7 個別労働問題への取組状況

労働者の個別の労働問題に「取り組んでいる」労働組合は88.1%（平成30年調査93.0%）となっており、取組の方法（複数回答）をみると「労使協議制度を通じて関与」59.5%（同61.4%）が最も高く、次いで、「各職場毎に職場委員等を設置」59.4%（同57.2%）、「団体交渉を通じて関与」36.0%（同38.0%）となっている（第16表）。

第16表 労働者の個別の労働問題に関する取組の有無及び取組の方法別割合

（単位：％）令和3年

区分	計	取り組んでいる	取組の方法（複数回答）								取り組んでいない	不明
			各職場毎に職場委員等を設置	自労働組合に個別紛争に対する窓口等を設置	上部組織（本部組合等）に個別紛争に対する窓口等を設置	労使協議制度を通じて関与	団体交渉を通じて関与	苦情処理制度を通じて関与	外部機関や外部専門家を紹介	その他		
計	100.0	88.1 (100.0)	(59.4)	(19.2)	(18.7)	(59.5)	(36.0)	(27.2)	(15.2)	(6.1)	11.4	0.6
< 産 業 >												
鉱業，採石業，砂利採取業	100.0	83.9 (100.0)	(49.1)	(24.4)	(13.6)	(61.3)	(30.6)	(43.9)	(13.3)	(3.0)	16.1	-
建設業	100.0	82.8 (100.0)	(43.4)	(16.6)	(26.3)	(69.0)	(23.1)	(15.8)	(12.8)	(4.1)	16.9	0.3
製造業	100.0	84.7 (100.0)	(70.5)	(17.1)	(11.4)	(64.1)	(32.2)	(23.6)	(13.9)	(6.5)	15.0	0.3
電気・ガス・熱供給・水道業	100.0	94.0 (100.0)	(64.5)	(15.7)	(41.7)	(44.8)	(14.2)	(57.0)	(27.6)	(4.4)	5.3	0.7
情報通信業	100.0	97.1 (100.0)	(59.8)	(28.7)	(18.9)	(65.1)	(44.0)	(26.7)	(16.6)	(1.5)	1.4	1.5
運輸業，郵便業	100.0	88.9 (100.0)	(54.6)	(18.3)	(20.5)	(54.6)	(47.4)	(37.4)	(15.1)	(10.5)	11.1	-
卸売業，小売業	100.0	94.2 (100.0)	(64.3)	(28.6)	(27.1)	(70.3)	(30.2)	(30.3)	(18.9)	(1.5)	5.0	0.8
金融業，保険業	100.0	90.3 (100.0)	(51.7)	(9.7)	(12.7)	(37.6)	(24.2)	(12.1)	(17.1)	(10.2)	9.1	0.6
不動産業，物品賃貸業	100.0	88.6 (100.0)	(45.8)	(11.5)	(9.3)	(56.0)	(39.1)	(6.0)	(6.8)	(8.1)	11.4	-
学術研究，専門・技術サービス業	100.0	90.1 (100.0)	(56.3)	(16.9)	(12.7)	(60.1)	(27.2)	(27.3)	(11.4)	(5.1)	9.2	0.7
宿泊業，飲食サービス業	100.0	92.0 (100.0)	(41.4)	(29.6)	(23.0)	(70.5)	(32.9)	(27.6)	(13.9)	(2.7)	5.8	2.2
生活関連サービス業，娯楽業	100.0	84.7 (100.0)	(47.1)	(22.6)	(20.1)	(66.5)	(41.1)	(26.0)	(12.7)	(4.2)	14.2	1.1
教育，学習支援業	100.0	87.6 (100.0)	(18.9)	(13.6)	(9.4)	(33.4)	(66.7)	(17.2)	(14.5)	(7.7)	12.4	-
医療，福祉	100.0	86.6 (100.0)	(44.3)	(17.7)	(19.0)	(52.8)	(53.0)	(18.4)	(9.6)	(4.9)	10.3	3.2
複合サービス事業	100.0	83.6 (100.0)	(56.2)	(22.8)	(32.1)	(58.6)	(55.2)	(46.5)	(13.7)	(4.8)	15.9	0.5
サービス業（他に分類されないもの）	100.0	86.2 (100.0)	(37.8)	(18.4)	(25.0)	(53.4)	(37.9)	(18.2)	(9.4)	(8.1)	13.8	-
< 企 業 規 模 >												
5,000人以上	100.0	94.7 (100.0)	(66.8)	(28.5)	(33.0)	(57.3)	(32.0)	(48.2)	(28.5)	(5.4)	4.6	0.6
1,000～4,999人	100.0	92.8 (100.0)	(66.2)	(21.5)	(21.5)	(63.6)	(25.3)	(23.2)	(13.5)	(2.9)	7.1	0.1
500～999人	100.0	90.8 (100.0)	(62.2)	(15.9)	(11.3)	(73.6)	(48.5)	(22.0)	(18.4)	(4.1)	7.6	1.6
300～499人	100.0	80.2 (100.0)	(67.5)	(13.1)	(9.0)	(59.1)	(31.1)	(26.0)	(9.8)	(10.6)	19.3	0.5
100～299人	100.0	83.6 (100.0)	(45.9)	(14.8)	(13.0)	(53.4)	(45.1)	(14.6)	(4.7)	(8.7)	15.6	0.7
30～99人	100.0	77.7 (100.0)	(39.6)	(9.1)	(5.6)	(51.3)	(44.6)	(15.3)	(7.4)	(8.5)	22.0	0.3
平成30年調査計	100.0	93.0 (100.0)	(57.2)	(16.2)	(17.0)	(61.4)	(38.0)	(27.1)	(11.0)	(5.3)	6.2	0.9

注：（ ）内は、労働者の個別の労働問題に関して取り組んでいる労働組合に対する割合である。

1) 都道府県労働局、都道府県の機関及び裁判所（労働審判制度の利用など）を含む。